



49 歌蒔絵重硯箱 江戸後期(18～19世紀) 木製漆塗、蒔絵 総24.5×21.5×17.5

歌会などの席で使用された重硯箱で、被せ蓋をともなう。最下段の硯箱の上に小硯箱を2組4段で重ねて一つの組み合わせとしている。被せ蓋の各面にそれぞれ『古今和歌集』や『金葉和歌集』『新千載和歌集』『壬二集』から採り上げた賀歌1首、四季の和歌4首とその歌絵を蒔絵で表しており、小硯箱の蓋には杜甫の五言律詩の一節が蒔絵されている。小硯箱の側面にはそれぞれの段に唐草や卍繫、七宝文などの連続文様が研出蒔絵で表されている。各箱に収められた水滴は銀地に七宝が施されたもので、すべて形が異なり、それぞれ菊や梅、笹などの草花が主題となっている。伝来によれば、昭和21年10月12日に貞明皇后が宮邸に行啓された折に殿下が拝領されたもので、もとは明治16年に宗重正から買上げ、皇室に伝えられてきた品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

若梅に撫子——旧高松宮家と伝来の品々

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 62

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十五年三月二十六日発行

© 2013, The Museum of the Imperial Collections